

桐生市議会 議会運営委員会 行政視察報告書

視察都市：神奈川県藤沢市（人口：443,399人令和7年9月1日現在 面積：63.56km²）

視察期間：令和8年1月16日(金) 10:00～11:30

訪問先：〒251-8601 神奈川県藤沢市旭町1-1
TEL 0466-50-3566

参加者：久保田裕一 渡辺 恒 北川久人 近藤芽衣 佐藤光好 河原井始 丹羽孝志

視察項目：議会報告会について

◎藤沢市の概要：

藤沢市は、神奈川県の中部に位置し、相模湾に面した海岸都市です。1940年に市制施行され、市の面積は約69.56平方キロメートル、人口は約44万人です。自然環境や歴史資産、文化的な活動が融合しており、地域経済が活性化しています。市内には、小田急電鉄の小田原線と江ノ島電鉄が通り、都心へのアクセスに優れています。藤沢駅は主要な交通拠点であり、通勤途中、観光地へのアクセス要所として重要な役割を果たしています。

藤沢市は観光業でも知られており、特に江ノ島と湘南海岸が人気のスポットで、江ノ島は観光名所として多くの観光客を引き寄せ、その栄華な歴史と文化を提供しています。湘南の海は人気の海水浴、サーフィン、マリンスポーツの目的地であり、多くの人々が享受しています。また、藤沢市の中心部には商業施設や飲食店が豊富にあり、市民の日常生活を支えています。



◎藤沢市の特徴：

藤沢市は神奈川県南部中央に位置し、相模湾に面した温暖な気候と美しい自然環境が特徴です。市域は69.56km²で、東京から50km圏内にあり、交通の便も非常に良好です。市の成り立ちは、鎌倉時代の遊行寺創建に遡り、江戸時代には藤沢宿として賑わいました。明治以降、湘南海岸が避暑地として注目を集め、商業の中心地として成長しました。特に、1887年に藤沢駅が開設され、交通網の発展が市の発展を促しました。

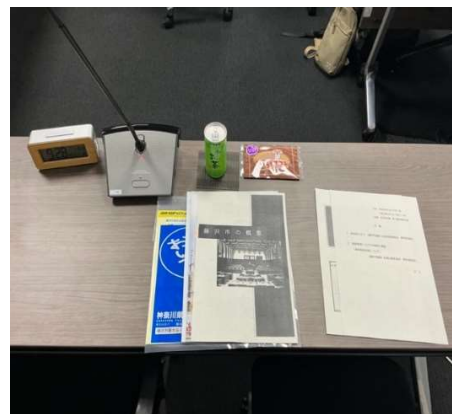
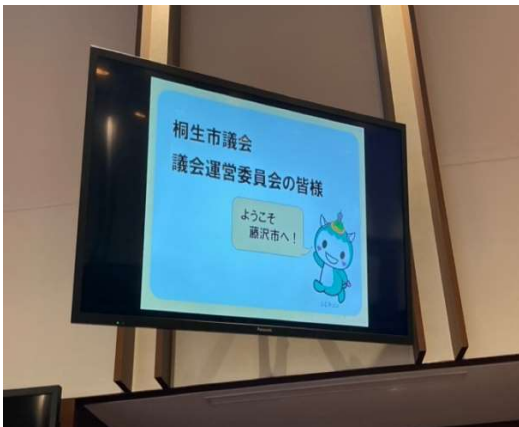
1908年に藤沢町、1940年に市制施行後、近隣町村を合併し現在の市域が形成されました。1960年代には工業都市へと変貌し、1970年代からは商業施設の進出で湘南地域の商業の中心地となりました。さらに、新しい市街地も次々と形成され、多くの住民が定住しました。

藤沢市は、観光地や住宅地としてだけでなく、工業と商業の発展を遂げ、図書館や体育館、大学などの教育・文化施設も充実しています。古い歴史背景を持つ宿場町としての魅力と、近代的な機能を併せ持つ学園・文化都市として、湘南地域の経済・文化の中核的存在として発展してきました。

藤沢市の特徴として、まず挙げられるのがその自然環境です。湘南海岸の美しい砂浜、豊富な緑地、江ノ島の独特な自然景観が調和し、四季折々の魅力があります。春には桜が咲き誇り、夏には海水浴や花火大会が開催され、秋には紅葉、冬には冬のアクティビティが楽しめる多様なレジャー環境が整っています。これにより、訪れた人々はさまざまなアクティビティを楽しむことができます。

文化的側面では、藤沢市には多くの伝統行事や祭りが開催されています。「藤沢市民マラソン」や「湘南藤沢花火大会」などの地域イベントは、地元住民だけでなく観光客も積極的に参加しています。また、藤沢市はサーフィン文化が根づいており、地元のサーフィンショップやコミュニティが活発に活動しています。このように、文化とスポーツが融合した地域です。

さらには、環境に対する取り組みも進められています。藤沢市は持続可能な開発目標（SDGs）に基づき、環境保護や再生可能エネルギーの導入を推進しています。市内の緑地の保全、資源循環の促進などが行われ、環境に優しい街づくりが進められています。このように、藤沢市は自然、文化、環境の調和を目指しており、住みやすい地域としても評価されています。



◎視察概要

- ・歓迎挨拶 及び、議会報告会等について
広報公聴会 委員長 栗原 貴司 様

◎説明趣旨

藤沢市議会の「カフェトークふじさわ」は、市民と議員が気軽に意見交換を行う新たな試みで、この取り組みの背景には、これまで実施してきた「議会報告会」や「意見交換会」における課題からの脱却がありました。具体的には、参加者層の偏りや発言の固定化といった課題が指摘され、主催する議員側にも「議会報告会や意見交換会をもう辞めたい」という厳しい声が上がっていました。

議会報告会と意見交換会に関する課題は、参加者の年齢層が偏り、特に若い世代の参加が少なかったこと、参加者が固定化し人数が減少する傾向が見られたこと、さらには特定の参加者に発言が集中して進行に課題があったり、市民と議会との間に対立的なムードを生じることなど、多岐にわたっていました。その結果、市政全般に対する苦情が多く寄せられ、建設的な議論が行われにくい状態が続きました。また、アンケート結果からも参加者の満足度が低かったことは大きな問題でした。

この背景を受け、2015年に法政大学の牧瀬教授に議会報告会の現状と課題を分析していただくことになり、教授からは、対面式の議会報告会から対話型のワールドカフェ方式への転換が提案され、これに基づいて2016年に第1回の「カフェトークふじさわ」が開催されました。以来、現在までに11回の開催を数え、参加者の年齢層は幅広くなり、満足度も劇的に向上しました。

「カフェトークふじさわ」では、参加者が少人数のグループに分かれ、自由な対話を楽しむための和やかな雰囲気大切にされています。議員は普段着で参加し、市民との距離を縮める工夫がされています。さらに、各テーブルには意見を書き込むための道具やお菓子が準備されており、参加者の間で活発な対話が促進されています。この取り組みの成果として、若い世代の参加者が増加し、全体の参加者年齢層が広がり、参加者の満足度が29%から89%へと向上しました。

今後の展望としては、議会報告会としての役割を再確認し、特に30代の参加者を増やすための工夫が求められています。また、実施した意見を議会に提言し、それを政策に反映させる重要性も高まっています。このように、新たな試みを通じて、市民参加型のより良い議会活動を目指していきます。これにより、藤沢市の市政がより開かれたものとなり、地域社会のニーズに応えていくことが期待されている。





◎質問事項

問1: 議会報告会の目的と成果について

藤沢市議会が議会報告会や意見交換会を開催する目的は何か？また、これまでの開催で得られた具体的な成果や市民の反応は？

答1: 市民との対話の促進と議会運営の透明性の向上が目的となっている。市民において議員との対話は、敷居が高いと感じられがちで、なかなか話す機会がないとされています。そこで、カフェのようなくつろいだ雰囲気の中で気軽に意見を交わし合える場を設けることを目指し、これまでの対面的な議会報告会から少人数のグループ形式に変更することで、市民とのコミュニケーションが図れるようにした所、参加者からの評判はよくなった。

問2: 参加者の多様性について

毎年開催されるカフェトークに参加する市民の属性(年齢層や職業など)は？また、参加者の多様性を確保するために工夫されている点は？

答2: これまでの議会報告会では、参加者の年齢層が偏り、特に若い方の参加が少なく、人数も減少傾向にありました。その結果、特定の参加者に発言が集中し、市民と議会との間に対立的なムードが生まれ、建設的な議論が行いにくくなっていました。

そこで、親しみやすさを重視した新たな議会報告会「ワールドカフェ」を導入しました。この手法では、くつろいだ雰囲気の中で小グループに分かれ自由に対話を行います。また、高校生が携わったチラシの作成や会場の装飾を工夫し、参加者が普段着で来られるよう配慮しました。お茶やお菓子も用意したことで、多様な方々が参加しやすい環境が整い、実際に参加者の幅が広がりました。

問3: テーマ設定のプロセスについて

カフェトークのテーマ(例: 藤沢駅周辺のまちづくり)はどのように設定したのか? また、市民のニーズや関心をどのように反映しているのか?

答3: 法政大学の公共政策研究科の牧瀬稔氏の専門家の視点を取り入れ、政策的な視野からテーマを深化させ、市民がどのような問題に関心を持ち、議論するべきかを検討していく。

問4: 牧瀬教授とゼミ生の役割について

牧瀬稔先生とゼミ生が果たす役割について詳しく教えてください。特に、ゼミ生が意見交換運営にどのように関与しているのか?

答4: 牧瀬稔先生に関しては、議会報告会や意見交換会の課題解決に向けてご尽力頂いている。また、牧瀬ゼミの学生に関しては、対話型のワールドカフェ方式においての少人数グループのテーブルホスト役や一般参加者と共に対話に参加する。

問5: 意見の集約と政策提言について

参加者からの意見をどのように集約し、どのようなプロセスで政策提言にまとめているのか? また、集約された意見の中から特に興味深い例は?

答5: 牧瀬ゼミの学生たちが、カフェトークふじさわで収集した意見やアンケートを基に、市民の声を直接反映させることを目的として集約し、定期的に藤沢市議会に政策提言する機会を設けている。

問6: 市長への提出方法について

カフェトークで得られた意見や牧瀬ゼミ生の政策提言は、実際に市長にどのように提出される形か? また、それに対する市長のフィードバックは?

答6: カフェトークで得られた意見を基に牧瀬ゼミの学生が政策提言を行い、その集約結果と提言をまとめた提言書を議長と広報公聴委員長が市長に提出します。ただ、市長からのフィードバックはまだなく、各議員が直接問い合わせを行っている状況です。

◎所感及び当局への提言：

藤沢市議会では、従来の議会報告会形式を見直し、市民との対話を重視した「カフェトークふじさわ」を導入しています。この取り組みは、参加者の固定化や発言しにくさを解消するために始まり、リラックスした雰囲気の中で市民が気軽に意見交換できる場として高く評価されています。特に、法政大学院の教授からのアドバイスを受けて、伝統的な対面型から対話型への転換が成功したことが示されました。

視察を通じて、藤沢市議会の議会報告会に対する高評価が寄せられる中、他市でも同様の形式を採用する必要性が強調されたと考えます。カフェトークの雰囲気は参加者の積極性を促進し、託児サービスの導入によって参加層が広がっている点も注目すべきです。若年層の参加者が増加したことは、市民との距離を縮める上で大きな成果であると認識しています。

これまでの取り組みを踏まえ、今後は市議会における意見交換のルールを再設定し、参加者が安心して自由に意見を述べられる環境を整えることが重要です。また、議会報告会で収集された意見やアイデアを政策形成にどのように反映させるかを検討し、有効なフィードバックのプロセスを確立する必要があります。定期的な評価と改善の仕組みを導入し、参加者の意見を基により良い議会運営を目指すことが求められます。

今回の視察を通じて得た知見をもとに、桐生市議会においても市民の声を積極的に取り入れ、議会と市民との関係性を深めるための改革を推進すべきでと考える。

